磯津の言葉（第3回）

今回は、川魚の漁法に関する言葉です。

○　テーマ　　川魚の漁法

対象魚	漁法名	説明	備　考
アユ	ひっかけ		
	アイ引き・アユ引き	3 月頃に河口付近で、地引網で稚アユを引いて取る	
ウナギ	やはず	（＝流し針）	
	ながの	50m～100m の道糸に針を延縄式につけ，川の深みに流しウナギを取る	
	のぞき		
	穴釣り	川岸の石の間に入ったウナギを釣る。	
	石くり	河口に玉石の山を作り、そこに入ったものを専用の網で囲み捕まえる	
	筒	竹の筒を川に沈め、そこに入ったものを取る	
フナ	寒ブナ取り		
ドジョウ	どじょうすくい	四つ手網によるドジョウすくい	
一般魚類	かいどり	溝川を止め、水をなくして魚を取る	
	ちょうちん	透明の専用ビンに練った餌を入れて流れのゆるい場所に沈めて、入った魚を取る	
	地引網		
	たてきり	川に横断的に網を立て、引き潮時に下がってくる魚を取る	
	投網		
	手づかみ	素手でのつかみ取り	

※　参考　昔の川の様子

・川が狭く，堤がもっと低かった。
・河川改修で左岸（北側）の堤は 100m 程度北側に移った。
・川原藪があり，狸や狐が多くいた。
・昔は，鈴鹿川と呼ばず「ウツベガワ」や「ウラカワ」と呼んだ。
・派川の方が流量が多かったが、海軍工廠の工事や河川改修により、本川の流量が増えた。

磯津ことばを記録する会（連絡先）　桜井好基（０９０－４２３３－５６９５）

○表内の誤りを含め、関係する古い言葉・伝承（ことわざ）等があれば会までお知らせください。